

Title	萩原滋略歴・主要研究業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2013
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学：人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.75 (2013. ) ,p.189- 196
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2012年度定年退職者略歴・著作目録一覧
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000075-0189">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000075-0189</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

産業政策研究所編 p15～27

5. 「『自然』と『自然権』をめぐる地理学的考察」(2005) 慶應義塾大学日吉紀要. 社会科学
6. “Japanese Urban System and the Growing Centrality of Tokyo in the Global Economy” (1996), co-authored, in Emerging World Cities in Pacific Asia, Fu-Chen Lo and et al (eds.) United Nations University Press
7. 「郊外ミドル景観の創始と変容: 戦後の郊外化」(1994) 日本アメリカ学会編『アメリカ研究』Vol. 28 p71～90
8. 「戦前期東京『山の手』における階層分化と地域分化: 『紳士録』データによる『上からの中流化』過程の分析」(1993) 慶應義塾大学日吉社会科学紀要
9. 「戦略的地域開発とは何か?」(1991) 流通経済研究所編『流通経済研究5月号』
10. “Small Business, Subcontracting and Regional Complex Formation”, (1990) co-authored, The International Journal of Urban and Regional Research
11. 「マジョリティにとっての国土政策」(1988) 高橋潤二郎編『四全総は日本を変えるか』 大明堂
12. 「21世紀の科学: 近代科学の数学的特性」(1984) 世界経済調査会編『世界経済』

## 萩原 滋 略歴・主要研究業績

### [生年月日]

昭和23年3月18日

### [学歴]

昭和41年 3月 慶應義塾高等学校卒業  
 昭和45年 3月 慶應義塾大学経済学部卒業  
 昭和48年 1月 米国カリフォルニア州立大学大学院心理学専攻修士課程修了 (M.A.)  
 昭和51年 3月 慶應義塾大学院社会学研究科心理学専攻博士課程修了  
 昭和60年10月 文学博士 (慶應義塾大学)

### [職歴]

昭和55年 2月 千葉大学人文学部専任講師  
 昭和56年 4月 千葉大学文学部専任講師 (配置換)  
 昭和58年 4月 千葉大学文学部助教授  
 昭和62年10月 慶應義塾大学新聞研究所助教授  
 平成 3年 4月 慶應義塾大学新聞研究所教授  
 (平成9年度よりメディア・コミュニケーション研究所に名称変更)  
 平成 6年 4月 慶應義塾大学大学院社会学研究科委員

この間、白梅学園短期大学、立正大学、杉野女子大学、お茶の水女子大学、東京女子大学、駒澤大学、

聖心女子大学, 東北大学, 東京大学, 九州大学, 成城大学, 青山学院大学で非常勤講師を務める

### [業績目録]

#### (著書 (単著, 共著, 編著))

- 1) 資料中心一般心理学 関東出版社 1984 (青木孝悦・箱田裕司と共著)
- 2) 責任判断過程の分析—心理学的アプローチ 多賀出版 1986
- 3) 留学生が見た日本—10年目の魅力と批判 サイマル出版会 1987 (岩男寿美子と共著)
- 4) 日本で学ぶ留学生—社会心理学的分析 勁草書房 1988 (岩男寿美子と共著)
- 5) 変容するメディアとニュース報道—テレビニュースの社会心理学— 丸善 2001 (編著)
- 6) テレビと外国イメージ—メディア・ステレオタイプング研究— 勁草書房 2004 (国広陽子と共編著)
- 7) テレビニュースの世界像—外国関連報道が構築するリアリティ 勁草書房 2007 (編著)
- 8) 認知心理学 有斐閣 2010 (箱田裕司・都築誉史・川畑秀明と共著)
- 9) テレビという記憶—テレビ視聴の社会史 新曜社 2013 (編著)

#### (著書 (分担執筆))

- 1) 個人と社会理解のための心理学 小林出版 1979 (第7章 他者とのかかわり 分担執筆)
- 2) 心理学の基礎 北樹出版 1984 (第7章 社会行動 分担執筆)
- 3) 行動心理ハンドブック 培風館 1989 (第18章 社会行動 共同執筆)
- 4) 心理学入門 有斐閣 1990 (第6章 ひとの間の結びつき: 社会心理学 分担執筆)
- 5) 帰属過程の心理学 ナカニシヤ出版 1991 (第5章 法と帰属 共同執筆)
- 6) 法の行動科学 福村出版 1991 (第4章 原因帰属と責任帰属 分担執筆)
- 7) 認知科学のフロンティア I サイエンス社 1991 (第6章 認知操作のための言語的方略——「弁明」研究の展開 分担執筆)
- 8) 新編社会心理学 福村出版 1997 (第10章1節 攻撃 分担執筆)
- 9) Communication scene: Japan. In A. Goonasekera & D. Holaday (Eds.), Asian Communication Handbook 1998. Singapore: AMIC and NTU, 1998. Pp. 81-94. (with Shinichi Saito)
- 10) Changing roles of foreign programming in Japanese television. In A. Goonasekera & P.S.N. Lee (Eds.), TV without borders: Asia speaks out. Singapore: AMIC, 1998. Pp. 171-203.
- 11) 日本の犯罪学8 (1978-1985) 東京大学出版会 1998 (・対策 責任判断過程の社会心理学的分析, pp. 24-29)
- 12) 現代心理学基礎論文集—昭和記念集— 神保出版 1999 (第5章 異文化接触と態度変容—留学体験をめぐる社会心理学的分析 分担執筆)
- 13) 外国メディアの日本イメージ—11カ国調査から 学文社 2000 (第13章 日本のテレビの伝える韓国イメージ 分担執筆)
- 14) 知性と感性の心理—認知心理学入門— 福村出版 2000 (トピックス11 言い訳の心理 分担執筆)
- 15) 新・社会心理学 慶應義塾大学出版会 2003 (第4章 社会的認知 分担執筆)

現代社会心理学—心理・行動・社会— 慶應義塾大学出版会 2004 (第4章 社会的認知 分担執筆)  
再録

- 16) Silver advertising: Older people in Japanese TV ads. In F/ Kohlbacher & C. Herstatt (Eds.), The silver marketing phenomenon: Marketing and innovation in the aging society. Springer, 2011, Pp. 239-247. (with M. Prieler, F. Kohlbacher & A. Arima)

(学術論文)

- 1) Visual versus verbal information in impression formation. *Journal of Personality and Social Psychology*, 1975, 32, 692-698.
- 2) 印象形成の研究: 情報統合理論によるアプローチ 慶應義塾大学院社会学研究科紀要 1975, 15, 43-51.
- 3) 認知不協和理論と自己認知理論をめぐる論争 慶應義塾大学院社会学研究科紀要 1976, 16, 79-87.
- 4) 社会的事象の認知への帰因的アプローチ—その理論的背景— 慶應義塾大学新聞研究所年報 1976, 7, 57-75.
- 5) 説得的コミュニケーションの受容に関する実験的研究 新聞学評論 1977, 26, 48-55.
- 6) 日本人の「対人行動」の実験社会心理学的研究—交通事故に対する「責任判断」への帰因的アプローチ— 組織行動研究 1977, 3, 3-39. (曾野佐紀子・佐野勝男と共著)
- 7) 日本人の「異文化への適応・同化過程」の比較社会心理学的研究—文化的同化訓練法 (Culture Assimilator) の開発をめざして: タイ国における事例 (1) — 組織行動研究 1977, 3, 71-87. (佐野勝男・高根定信・南隆男と共著)
- 8) 在日留学生の対日イメージ—欧米系留学生とアジア系留学生の比較— 年報社会心理学 1977, 18, 129-147. (岩男寿美子と共著)
- 9) 在日留学生の対日イメージ (1) —第1次調査資料と若干の考察— 慶應義塾大学新聞研究所年報 1977, 8, 9-34. (岩男寿美子と共著)
- 10) 在日留学生の対日イメージ (2) —SDプロフィールの検討— 慶應義塾大学新聞研究所年報 1977, 9, 27-72. (岩男寿美子と共著)
- 11) 在日留学生の対日イメージ (3) —滞日期間に伴う変化— 慶應義塾大学新聞研究所年報 1978, 10, 15-29. (岩男寿美子と共著)
- 12) 在日留学生の対日イメージ (4) —ケース・スタディー— 慶應義塾大学新聞研究所年報 1978, 11, 17-29. (岩男寿美子と共著)
- 13) 交叉文化的 (cross-cultural) 研究の方法と課題 組織科学 1978, 12, 60-68.
- 14) Fernsehen—ein violentes Medium?: Ein interkultureller Vergleich zwischen: Japan und Amerika Fernsehen und Bildung, 1978, 3, 148-157. (with Sumiko Iwao)
- 15) 在日留学生の対日イメージ (5) —パネル・スタディー— 慶應義塾大学新聞研究所年報 1979, 13, 21-50. (岩男寿美子と共著)
- 16) 日本人の「異文化への適応・同化過程」の比較社会心理学的研究—文化的同化訓練法 (Culture Assimilator) の開発をめざして: タイ国における事例 (2) —組織行動研究 1979, 4, 27-58. (高根定信・南隆男・佐野勝男と共著)

- 17) 現代に生きる児童・生徒の価値意識調査(1) —「家庭」に関する価値意識—組織行動研究 1979, 5, 3-48. (小泉仰・佐野勝男・大久保正健と共著)
- 18) テレビの子供番組の内容に関する実証的な分析事例とその方法 新聞学評論 1980, 29, 18-29.
- 19) 「不十分な正当化」と「充分すぎる正当化」—社会心理学における認知的パラダイム— 心理学評論 1980, 23, 106-120.
- 20) Japanese and U.S. media: Some cross-cultural insights into TV violence. Journal of Communication, 1981, 31, 28-36. (with Sumiko Iwao and Ithiel de sola Pool)
- 21) 韓国人大学生の対日イメージ 慶應義塾大学新聞研究所年報 1982, 18, 23-35. (岩男寿美子と共著)
- 22) 責任判断過程の分析—刑法理論に基づく特殊事例を用いて—慶應義塾大学新聞研究所年報 1983, 20, 135-165.
- 23) Role of self-based and sample-based consensus estimates as mediators of responsibility judgments for automobile accidents. Japanese Psychological Research, 1983, 25, 16-28.
- 24) テレビ視聴と攻撃性 慶應義塾大学新聞研究所年報 1986, 26, 45-70.
- 25) 日本のテレビにあらわれた外国要素の分析 千葉大学人文研究 1987, 16, 35-64.
- 26) テレビの中の外国・外国人—日本のテレビにあらわれた外国要素の内容分析— 新聞学評論 1987, 36, 57-72. (御堂岡潔・中村雅子と共著)
- 27) 在日留学生の対日イメージ(6) —10年後の再調査— 慶應義塾大学新聞研究所年報 1987, 28, 63-81. (岩男寿美子と共著)
- 28) 在日留学生の対日イメージ(7) —帰国留学生の追跡調査— 慶應義塾大学新聞研究所年報 1987, 28, 83-103. (岩男寿美子と共著)
- 29) 在日留学生の対日イメージ(8) —出身地域による違い— 慶應義塾大学新聞研究所年報 1987, 29, 33-53. (岩男寿美子と共著)
- 30) 在日留学生の対日イメージ(9) —滞日期間, 日本語能力による違い— 慶應義塾大学新聞研究所年報 1987, 29, 55-75. (岩男寿美子と共著)
- 31) 在日留学生の対日イメージ(10) —愉快・不愉快なできごとの分析— 慶應義塾大学新聞研究所年報 1988, 30, 21-40. (岩男寿美子と共著)
- 32) 在日留学生の対日イメージ(11) —日本人の好む外国人— 慶應義塾大学新聞研究所年報 1988, 31, 35-52. (岩男寿美子と共著)
- 33) 天皇崩御報道前後のアメリカにおける対日イメージ 慶應義塾大学新聞研究所年報 1989, 33, 29-55. (岩男寿美子と共著)
- 34) Violence on television in Asia: Japanese study. Keio Communication Review, 1990, 11, 3-23.
- 35) 弁解行為の日米比較 慶應義塾大学新聞研究所年報 1990, 35, 57-77.
- 36) 日本留学に対する在日および帰国留学生の評価—1975年および1985年の調査結果から— 異文化間教育 1991, 5, 35-48.
- 37) テレビにおけるニュース報道の分析—午後6時台と9時以降の番組比較を中心に— 慶應義塾大学新聞研究所年報 1992, 38, 29-52.
- 38) The concept of responsibility and determinants of responsibility judgments in the Japanese con-

- text. *International Journal of Psychology*, 1992, 27, 143-156.
- 39) Roles, responsibility, and accounts across cultures. *International Journal of Psychology*, 1992, 27, 157-179. (With V. Lee Hamilton)
  - 40) 一般人の責任判断過程の分析 法社会学 (法の解釈と法社会学) 1993, 45, 156-160.
  - 41) 日本のテレビCMにおける外国要素の役割 慶應義塾大学新聞研究所年報 1994, 43, 29-52.
  - 42) Rise and fall of foreign programs in Japanese television. *Keio Communication Review*, 1995, 17, 3-26.
  - 43) 外国製作のテレビ番組に対する日本人の態度 マス・コミュニケーション研究 1995, 47, 180-194.
  - 44) Older drivers' safety in age-heterogeneous driving contexts. *IATTS Research*, 1996, 20 (1), 6-11. (With H. Ota)
  - 45) 在日留学生の対日イメージ (12) —第3次調査 (1995年) の枠組みと結果の概要— 慶應義塾大学新聞研究所年報 1997, 47, 1-20. (岩男寿美子と共著)
  - 46) 在日留学生の対日イメージ (13) —滞日経験に関する評価の経年変化— 慶應義塾大学新聞研究所年報 1997, 47, 21-41. (岩男寿美子と共著)
  - 47) 在日留学生の対日イメージ (14) —帰国留学生調査 (1995) の枠組みと結果の概要— メディア・コミュニケーション 1998, 48, 75-103. (岩男寿美子と共著)
  - 48) Japanese television as a window on other cultures. *Japanese Psychological Research*, 1998, 40, 221-233.
  - 49) 変容するメディアとニュース報道—テレビニュースの娯楽化傾向の検証— メディア・コミュニケーション 1999, 49, 1-31. (斎藤慎一・川端美樹・横山滋・李光鎬・福田充と共著)
  - 50) The reception of global TV in Asia: An assessment of its impact on local cultures. *Asian Journal of Communication*, 1999, 9, 1-20. (with S.R. Joshi, R. Karthigesu, James F. Kenney, Paul S.N. Lee, & Elena Pernia)
  - 51) 1999年東京都知事選報道の分析—テレビ報道の特質を探る— メディア・コミュニケーション 2000, 50, 3-21. (福田充・横山滋・李光鎬・川端美樹・斎藤慎一と共著)
  - 52) ニュースサイトの利用と効果—インターネットはニュース行動をどう変えるか— メディア・コミュニケーション 2000, 50, 23-43. (斎藤慎一・川端美樹・福田充・李光鎬・御堂岡潔・横山滋と共著)
  - 53) テレビと新聞が伝えるニュースの重複と分化 マス・コミュニケーション研究, 2000, 57, 95-108.
  - 54) テレビニュース番組の娯楽化傾向に対する視聴者の評価 東京女子大学「論集」, 2000, 51, 93-112. (御堂岡潔・川端美樹・斎藤慎一・李光鎬・横山滋・福田充と共著)
  - 55) 1990年代における大学生のテレビ視聴の動向—都内4大学での継時的調査結果の報告— メディア・コミュニケーション 2001, 51, 111-129.
  - 56) テレビを中心とする大学生のメディア利用状況 (2001) —首都圏7大学での調査結果の報告— メディア・コミュニケーション 2002, 52, 157-178.
  - 57) 『ここがヘンだよ日本人』: 分析枠組と番組の特質 メディア・コミュニケーション 2003, 53, 5-27.
  - 58) 調査結果にみる『ここがヘンだよ日本人』の視聴者像と番組視聴効果 メディア・コミュニケー

- ション 2003, 53, 77-96. (大坪寛子・相良順子と共著)
- 59) ワールドカップによる外国・外国人イメージの変化 メディア・コミュニケーション 2003, 53, 97-114. (上瀬由美子と共著)
- 60) 『ここがヘンだよ日本人』で描かれた外国人イメージ 人間と社会の探求 (慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要), 2003, 56, 1-19. (渋谷明子と共著)
- 61) 日本のテレビ広告に現れる外国イメージの動向 メディア・コミュニケーション 2004, 54, 5-26.
- 62) メディアと子どもの外国イメージ—小中高校生を対象とした発達的研究— メディア・コミュニケーション 2004, 54, 59-73. (相良順子と共著)
- 63) 『ここがヘンだよ日本人』(TBS系)の番組視聴効果の持続性に関する検討 メディア・コミュニケーション 2004, 54, 75-93. (大坪寛子と共著)
- 64) 2002年FIFAワールドカップに関するテレビ報道の内容分析と視聴者の評価 人間と社会の探求 (慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要), 2004, 57, 33-49.
- 65) マス・メディアが描く中国・中国人イメージ—『ここがヘンだよ日本人』における描写を中心に— 人間と社会の探求 (慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要), 2004, 57, 97-109. (山本明と共著)
- 66) ワールドカップによる韓国・韓国人イメージの変化 人間と社会の探求 (慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要), 2004, 57, 111-124. (上瀬由美子と共著)
- 67) 日本のテレビにおける外国関連報道の動向(2003年11月～2004年8月) メディア・コミュニケーション 2006, 56, 39-57.
- 68) 大学生のメディア利用と外国認識—首都圏13大学での調査結果の報告— メディア・コミュニケーション 2007, 57, 5-33.
- 69) フレーム概念の再検討—実証的研究の立場から— 三田社会学, 2007, 12, 43-59.
- 70) 日本のテレビCMにおける高齢者像の変遷—1997年と2007年の比較— メディア・コミュニケーション 2009, 59, 113-129. (PRIELER Michael, KOHLBACHER Florian, 有馬明恵と共著)
- 71) How older people are represented in Japanese TV commercials: A content analysis. Keio Communication Review, 2009, 31, 5-21. (with M. Prieler, F. Kohlbacher & A. Arima)
- 72) Ältere menschen in der Japanischen fernseh-werbung: Eine umfragebasierte und inhaltsanalytische untersuchung. Japanstudien (Jahrbuch des Deutschen Instituts für Japanstudien), 2009, 21, 197-222. (with M. Prieler, F. Kohlbacher & A. Arima)
- 73) テレビ視聴の現況と記憶—ウェブ・モニター調査(2009年2月)の報告(1)— メディア・コミュニケーション 2010, 60, 5-28. (小城英子・村山陽・大坪寛子・渋谷明子・志岐裕子と共著)
- 74) 集会的記憶とテレビ—ウェブ・モニター調査(2009年2月)の報告(2)— メディア・コミュニケーション 2010, 60, 29-47. (小城英子・村山陽・大坪寛子・渋谷明子・志岐裕子と共著)
- 75) 多様化する若者のテレビ視聴スタイル—大学生の質問紙調査から— メディア・コミュニケーション 2010, 60, 49-65. (志岐裕子・テーシャオープン・村山陽との共著)
- 76) 北京オリンピック視聴と中国・中国人イメージの変化—大学生のパネル調査分析から— メディア・コミュニケーション 2010, 60, 67-88. (上瀬由美子・李光鎬と共著)
- 77) Older celebrity versus non-celebrity television advertising: A Japanese perspective. Keio Com-

- munication Review, 2010, 32, 5-23. (with M. Prieler, F. Kohlbacher & A. Arima)
- 78) The use of older models in Japanese TV advertising: Practitioner perspective vs. consumer opinions. Keio Communication Review, 2011, 33, 25-42. (with F. Kohlbacher & M. Prieler)
- 79) 越境する文化とテレビの役割—ウェブ・モニター調査 (2010年2月) の報告 (1) — メディア・コミュニケーション 2011, 61, 75-102. (テージャオブン・上瀬由美子・小城英子・李光鎬・渋谷明子と共著)
- 80) メディア接触と異文化経験と外国・外国人イメージウェブ・モニター調査 (2010年2月) の報告 (2) — メディア・コミュニケーション 2011, 61, 103-125. (渋谷明子・テージャオブン・李光鎬・上瀬由美子・小城英子と共著)
- 81) 外国に関する集合的記憶とテレビウェブ・モニター調査 (2010年2月) の報告 (3) — メディア・コミュニケーション 2011, 61, 75-102. (小城英子・テージャオブン・上瀬由美子・李光鎬・渋谷明子と共著)
- 82) Gender representation of older models in Japanese television advertisements. Sex Roles, 2011, 64, 405-415. (with M. Prieler, F. Kohlbacher & A. Arima)
- 83) 異文化理解とテレビの役割—大学生調査 (2010年10月) の報告— メディア・コミュニケーション 2012, 62, 5-32.
- 84) 多メディア環境下におけるテレビの役割—ウェブ・モニター調査 (2011年2月) の報告 (1) — メディア・コミュニケーション 2012, 62, 33-56. (志岐裕子・李光鎬・小城英子・上瀬由美子・渋谷明子と共著)
- 85) SNS利用者のコミュニケーションとテレビ視聴—ウェブ・モニター調査 (2011年2月) の報告 (2) — メディア・コミュニケーション 2012, 62, 57-78. (小城英子・渋谷明子・志岐裕子・李光鎬・上瀬由美子と共著)
- 86) テレビが構築する社会的出来事・音楽番組・アイドルの集合的記憶— メディア・コミュニケーション 2012, 62, 79-105. (渋谷明子・志岐裕子・李光鎬・小城英子・上瀬由美子と共著)

#### (一般論文)

- 1) テレビ暴力の内容と影響に関する研究 月刊アドバタイジング 1978, 9, 38-43.
- 2) テレビの中にもみる「死」 総合教育技術 1979, 6, 38-41.
- 3) 帰属の誤り—臨床場面にも開かれた適用可能性 サイコロジー 1983, 6, 42-47.
- 4) 帰国後の留学生 大学世界 1987, 71, 14-15.
- 5) 日本で学ぶ留学生の現実 IDE・現代の高等教育 1989, 301, 26-32.
- 6) 留学生と地域社会 月刊自治フォーラム 1989, 357, 6-9.
- 7) Can we really talk in Japanese? Japan Quarterly, 1990, 37, 158-163.
- 8) 対日イメージの動向 三色旗 1991 (11月号), 13-16.
- 9) 新聞研究所とマスコミの世界 三色旗 1992 (6月号), 22-23.
- 10) 弁明の日米比較 現代のエスプリ (異文化間コンフリクト・マネジメント—地球社会時代を生きぬくために) 1993 (3月号), 70-78.
- 11) 社会心理学とマスコミ研究 三色旗 1995 (2月号), 8-11.

- 12) 留学生調査を実施するにあたって 三田評論 1995 (12月号), 43.
- 13) 日本からの番組輸出の動向 三田評論 1996 (7月号), 34-35.
- 14) 「新聞研究所の50年」小史 三田評論 1996 (10月号), 88-89.
- 15) テレビの中の外国文化 三田評論 1998 (8.9月合併号), 36-37.

(翻訳)

- 1) (G.W. Allport Letters from Jenny. Harcourt, Brace, & World, 1965) ジェニーからの手紙—心理学は彼女をどう解釈するか 新曜社 1982 (青木孝悦と共訳)

## 渡辺茂 略歴・主要研究業績

[生年月日]

昭和23年1月19日

[学歴]

昭和45年3月 慶應義塾大学文学部卒業  
 昭和45年4月 慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻修士課程入学  
 昭和50年3月 慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻博士課程修了  
 昭和54年3月 文学博士

[職歴]

昭和48年4月～昭和56年3月 慶應義塾大学文学部助手  
 昭和56年4月～平成元年3月 慶應義塾大学文学部助教授  
 平成元年4月～ 慶應義塾大学文学部教授, 現在にいたる  
 平成18年4月～23年3月 慶應義塾大学グローバルCOE「論理と感性の先端的教育研究拠点」拠点リーダー  
 平成21年4月～22年3月 慶應義塾大学「人間知性研究センター」センター長  
 平成24年～平成24年12月 慶應義塾大学「論理と感性のグローバル研究センター」センター長

この間、メリーランド大学、英国MRC行動神経機構部門、フィリッピン大学、サンパウロ大学、エクセター大学、ケンブリッジ大学、ビーレフェルト大学、エコール・ノルマル・スペリエールで研究／教育に従事。

[Publications]

(Monographs)

渡辺茂 1995 『認知の起源をさぐる』岩波書店  
 渡辺茂 1995 『ピカソを見分けるハト』日本放送協会